

# 忘却

スーパーへ買物に出かけた。

買うものを書いたメモを忘れてきた。

何を書いたのか忘れた。何処に置いたのかも忘れたし、何故置いて来たのかも忘れた。

あれ？メモした？メモしたことも忘れた。何故メモしたのかも忘れた。

何か買うものあったのか？ない。あれ？なんでここにいるの？ここは誰？私は何処？

とうとう、忘れたことも忘れてしまった。早々に帰宅。

果たして上着の左ポケットからそのメモが出てきた。左ポケットに入れたことも忘れていたし、何故左ポケットに入れたのかも忘れた。

気を取り直して、もう一度出かけた。メモよろしく目的のモノは全て揃った。

しかし、レジの直前で、こともあろうにお財布が無いことに気が付いた。

あわわ。スリか？あわわ。落としたのか？あわわ。何処に置いたのか？

お財布がないという事実以外は、頭の中が真っ白である。

並んでいた後ろの方（人）にレジの順を（財布忘れを悟られない様に）譲って、サービスカウンターにモノの全てを預けてお財布捜しに走った。

結論は、自宅のテーブルの上（ど真ん中）に鎮座していた。何故忘れたのかも忘れた。

ほっとした。少し落ち着いたところで、急にお腹が減ってきた。お財布が見つかり嬉しかったので、奮発してお鮓を食べに行った。久しぶりに食べたことも相まって大変美味しかった。帰宅して、ほっとしたのと満腹感で眠くなり、寝てしまった。

読者各位、これは噺であって事実ではないし、まして自分や誰かのことではない。文中主語を外して「誰が」に言及しないように配慮した。したがって、ご心配不要である。サービスカウンターに預けたモノも架空であり、実体はない。ご指摘も不要である。

しかし、他人事ではない。部分的には事実なのである。恥を忍んで申し上げる。先日、ホームセンターに買物に行きレジで会計中にお財布がないことに気が付いた。店員さんに平謝りし、モノを預かってもらい、取り急ぎ帰宅しお財布持って、取り急ぎ引き返したことがあった。類似の現象が、今の噺のように連鎖的に発生すると、世間に迷惑をかけ、生活に支障をきたし、医療機関の世話になることになるが、今の所、その傾向や該当はない。（忘れたことは忘れていない状態）ともあれ、人生の後半（の前半）を歩んでいる者としては、その境地へ嫌でもどんどん進んでいることを覚悟しなければならない。間違いなく川岸に近づいているのである。

これを書いているのは節分、明日は立春。お彼岸も間近である。